

# 幼稚園教諭養成と音楽教育

——短期大学保育科におけるピアノ学習の問題点——

葛 西 公 子

## 一 ま え が き

幼稚園教諭養成を主とする短期大学保育科において、専門教育科目としての、音楽に関する授業時間数は、かなり多いといつてよいであろう。このことは幼稚園教育において、音楽の占める地位がかなり重要視されていることによるためと思われる。

しかしながら、二年間という短い期間において、一応の音楽を修得させることは、かなり多くの問題を含んでいるように考えられる。幼稚園教諭養成課程においては、一般教育科目としての教養科目と、専門科目としての幼児教育の専門的各分野の授業がかなり多く、かならずしも音楽のみに偏するわけにはいかないのが実状である。しかし、一方、保育科卒業生で、現在幼稚園に勤務している先生方達に対する意見として、音楽の基礎的技能がかなり弱いといわれているような現状がある。この場合、基礎が弱いということの具体的内容は、多くピアノ演奏技能の程度が低いということであるようであるが、その他多くの問題が存在して

いると考えられる。

そこで、こうした問題について、現在の幼稚園における、教育内容「音楽リズム」の内容と指導の実態と、これらの実際の教育に必要な音楽の基礎的技能の程度について考察し、問題点を明確にするために、調査研究を行うことにした。

ここではまず、ピアノ演奏技能を中心にして現状分析を行い、今後のあり方を考察してみたい。

ここで得られた結果は、幼稚園教諭として必要な技能を身につけさせるためには、どのような教育課程を組んだらよいか、又、二年間で、学生に音楽の基礎理論と技能とを修得させるのに、もっとも能率的な指導の方法はどのようにしたらよいか等、考察するための基礎資料とした。

## 二 現職教諭のピアノ演奏技術についての実態

### (一) 調査研究の目的

第1表

(1968.9月調査)

卒業年度	経験年数	大学卒	短大卒	養成2卒	養成1卒
42年	0年—1年	1人	26人	6人	
41年	1年1ヶ月—2年		10人	2人	
40年	2年1ヶ月—3年	1人	10人	2人	
39年	3年1ヶ月—4年		2人		
38年	4年1ヶ月—5年		4人	1人	
37年	5年1ヶ月—6年			4人	
36年	6年1ヶ月—7年		1人		
35年	7年1ヶ月—8年				
34年	8年1ヶ月—9年		1人		1人
33年	9年1ヶ月—		1人		
32年	10年			2人	
31年	12年			1人	
27年	16年				2人
計		2人	55人	18人	3人

現在、幼稚園に勤務している教諭のピアノ演奏技術についての意見、及び実態を調査し、問題点を抽出する。

### (二) 調査研究の方法と対象

方法としては、都内の幼稚園にアンケート用紙を配布し、教諭の意見を集めた。期間は昭和四十三年九月十日～十月十日の一ヶ月間、配布枚数、二一〇枚(十七園)、回収枚数七八枚、回収率が三二・四%と低くなっている、回答者の内容について、経験年数、及び卒業学校によって分類すると第一表のようになる。

短期大学卒五五人、養成課程二年卒一八人、養成課程一年卒三人、四年大学卒二人、である。これらのうち四年大学卒については国立大学教育学部卒と、家政学科卒であり、又、人数も少ないので本調査から除外した。

養成課程一年卒についても実数三で、経験年数八年以上であり、これも除外した。従って、以下、本調査の使用するアンケートは養成二年課程卒一八人、短大卒五五人の二つについて分析し、その結果に基づいて考察を進めたいと思う。但し、今回は、短大における音楽教育を主に考えたいので、主として短大卒の資料を用い、養成課程のものは、参考程度に留めることにする。

短大卒の内容についてみると、経験一年未満二六人、二年一〇人、二～三年一〇人であり、従って三年以内は四六人で、のこりは、最高九年に至るまでの九人であった。一応、短大卒を経験年数別にわけて、調査比較を試みたがあまり大きな差がみられなかったので、経験年数の差は、一まとめにして考察する。

養成課程二年卒のものについては、三年未満が一〇人であり、残り八人は三年以上であった。

### (三) 調査結果と考察

短期大学保育科卒業生についてまとめたものは次のようである。

#### (1) 就職当時のピアノ演奏技術の自己評価

卒業後、幼稚園に就職したときに自分のピアノ演奏技術では、実際に保育する上で困ったか、困らなかったかについて調べた。結果は第二～四表の通りである。

第2表

はじめて就職した頃	困った	普通	十分	不明	計
保育科に入ってからピアノを始めた人	22人	13人	0人	0人	35人
保育科に入る前から始めた人	0	10	0	4	14
不明	0	6	0	0	6
計	22人	29人	0人	4人	55人

第3表 保育科に入ってからピアノ学習を始めたのうち

困った (22) 人	在学中個レッスンを受けた ク 個人レッスンを受けない	7 人 15 人
---------------	-------------------------------	-------------

第4表

困った (22) 人	卒業後個人レッスンを受けた 受けない	4 人 18 人
---------------	-----------------------	-------------

保育科に入ってから初めてピアノ学習を始めた者であることがわかる。入学以前にピアノ学習を始めたものは「普通」と答えているが、「十分」と答えた者は全くない。

次に、「困った」と答えている二人の中で、学生時代学校外での個人レッスンを受けたか、受けなかったかという間に、特に個人レッスンを受けた人は二人中七人であり、約75%しか、レッスンを受けていない。なお、「普通」と答えた者の中で、学生時代レッスンを受けた者が、

勤務した当時、困っ

たと訴えているもの

は、五人中二人で

あり、半数近い者が「困

った」とっている。

「普通」と答えたのが

二十九人で半数よりやや

多い。尚、その他、四

名は答えていない。全

体の傾向からみて、ピ

アノの学習を短大に入

ってから始めたもの

と、入学以前から学習

していて、バイエル修

了以上のものとに分け

てみると、困った者は

第5表 困った人達の理由

1 学校での授業時間が少ない	14 人
2 練習するためのピアノがなかった	8 人
3 一生懸命授業を受けなかった	6 人
4 幼稚園保育園で音楽の曲がむずかしい	1 人
5 その他（不明）	2 人

どの程度いたかについて調査をしなかったので、授業以外の個人レッスンの効果について十分考察できない。

学校以外に個人レッスンを受けながら、なお、現場にて「困った」という人が三〇%もいることは、現場で為されている音楽と、学校や個人レッスンでの音楽とが、隔たりすぎているのか、或いは、個人の能力の問題であるのか、注意すべき点であると考えられる。

さらに、「困った」人について、卒業後、個人レッスンを受けたかどうかについては二人中、わずか四名（一八%）しかレッスンを受けていない。残りの八二%（一八名）の人達は、独学で技術を磨くことに努

めているのか、或は、自分の力の及ばぬことを認めながら、まあまあ主義でその場を過ごしているのか、気にかかることである。

次に、「困った」と答えた人達について「何故、自分が十分にピアノが弾けないか」、その理由については、第五表の通りである。

(一) 最も多いのは、「学校での授業時間が少なかった」。ということで一四人。

(二) 「練習のためのピアノが少なかった」というのが八名。

(三) 「一生懸命、授業を受けなかった」のが六人。

(四) 「幼稚園で用いる曲が難かしい」と答えたのは、わずか一人であり、その他の二人については、理由がはっきりしない。したがって、「学校で

第6表

	十分	普通	不十分	計
① 楽典など理論的なことが	11人	40人	4人	55人
② ピアノ実技表現実技などの基礎	7人	38人	10人	55人
③ 歌、マーチ、リズム遊びなど実際的なことが	9人	27人	19人	55人
計	27人	105人	33人	165人

ある。

(二) 「ピアノの実技、表現実技などの基礎的なことが十分であったかどうか」、について

さきの(一)問とほぼ同じ様な傾向を示している。しかしながら、「不十分」の者が二〇%おり、実技に関しては、理論的なことについてよりは、多少不満があるようにみられる。

(三) 「歌、マーチ、リズム遊びなど幼児教育に使用する実際的なことについて十分であったかどうか」、について、

(一) (二) とちがってかなり「不十分」であると答えたものが多い

の授業時間が少ない」というのが大きな理由で、次に練習用のピアノ不足が、あげられている。これは、保育科における、練習用ピアノ台数の不足や、授業の時間配当等に不満をもっていたと考えられる。

## (2) 在学中の音楽専門教育の評価

次に学校での音楽の専門教育についての評価を三つの分野に分けて調査した。

(一) 「楽典など、理論的なことが十分であったかどうか」についての調査によると、「普通」が大部分で、「不十分」が少なく、一〇%に満たない。「十分」と考えているものは二〇%。大体の人が理論的なものについては「普通」、か「十分」と考えているようである。

第7表

	はい	いいえ	どちらともいえない	計
① 音楽リズムの教材の程度がたかすぎる	1人	31人	17人	49人
② リズムの内容や、指導の方法にはいろんなものがありどのような内容や方法がよいのか迷うことが多い	24人	9人	17人	50人
③ 音楽リズムの内容や指導は理論的にも具体的な教材についても十分進んでおり問題はない	1人	21人	24人	46人

のが特徴である。すなわち、「普通」、及び「十分」、約六〇%、この四〇%は「不十分」と答えている。このことは、前の、「幼稚園に就職した頃、ピアノ演奏で困った」、と答えたのが多いことと、かなり符合しているのではないかと考えられる。したがって、これら、三つのことから考えられることは、理論的や基礎的なことについては「やや、十分」であると考えられるのに対して、「幼児のための歌や、マーチ、リズム遊び」など、実際的なことについて、学校の授業に不満を感じているように考えられる。

(3) 「現在の幼稚園の教育内容、音楽リズム」についての意見

現在の幼稚園における、音楽リズムの内容について、どのように考えているか、を調査したところ、

(一) 「音楽リズム」教材の程度について、「高すぎる」と答えたもの三名、「どちらともいえない」一七名、となっていて、「高すぎる」と答えたものは、わずか一名にすぎない。このことは、自分達の音楽に対する技能と関連してみても、かならずしも高いとは考えていないことがわかる。

(二)「どのような音楽リズムの内容や方法がよいのか、迷うことがあるかどうか」、について、

「迷う」と答えたもの二四名で「どちらともいえない」一八名、「迷わない」一九名で、迷わないといひ切る者は少ない。約半数が内容や方法に迷うものが多いと考えている。このことは、幼児の音楽の内容と方法は、多様であることを示しており、それと同時に、実際の指導にあたる先生達が、その選択に、かなり迷っていることを示している。

(三)「音楽リズムの内容や指導は、理論的にも、また、具体的な教材についても、十分進んでいるか」どうかについては

否定、ないしは、疑問が多く、これは、前の幼児の音楽リズムの内容と指導法の多様性が必ずしも、十分進んでいることの反映とは、評価されていないことを示しているのではないだろうか。

最後に、ピアノ学習のあり方についての意見を自由に書いてもらい、これを整理してみると次のようであった。

#### ピアノ学習のあり方についての意見

(1)保育で実際に使用する曲を中心にする。

(19人)

○幼児用の教材曲で独自の課程を編成する。

○教材曲が自由にひけるようにする。

○行進曲、リズム遊びを併用すること。など。

(2)個人レッスンの時間を充分とる。

(12人)

○楽器をふやして、個人レッスンの充実をはかること。

○一人あたりの時間を、もっと多くする。など。

(3)きびしく指導する。

(7人)

○個人レッスンをきびしく。

○徹底的な個人レッスンをする。

○毎日練習する。など。

(4)基礎を中心に学習させる。

○職場に入ってから勉強も大切。

○学校では基礎を多く。など。

(5)入学時に、基礎的能力を審査する。

○バイエル修了を、入学時の資格とする。

(3人)

(4人)

### 三 保育内容「音楽リズム」教材からみたピアノ

#### 演奏技術について

**目的** 保育の実践の中で、要求されているピアノ演奏技術の程度を具体的に検討する。

**方法** 保育の中で、実際につかわれている曲目を集めて、その曲目をピアノ演奏技術の難易によって、分類整理した。

曲を集める方法として、ここでは、次のように、保育雑誌の一ヶ年分と、単行本として『音楽指導書』の中の曲を使用した。

保育雑誌『月刊保育カリキュラム』『保育ノート』 昭和四二年四月号より

昭和四三年三月号まで

『幼児音楽教育法』 幼児音楽教育研究会編 代表者 鈴木富三・玉越三朗

取り上げた曲目は、保育雑誌と単行本の中で、幼児教育の教材として使用されるように解説されているものである。

**結果と考察** 調査した雑誌及び単行本の曲目は次の通りであった。

月刊保育カリキュラム		
曲 名	作曲者	作詞者
子どもの日	一宮 道子	天野 蝶
あまだれぼったん	一宮 道子	戸倉 ハル
早起きどけい	河村 光陽	富原 薫
みんなよいこで	増子 とし	
お月さま	箕作 秋吉	深尾 須磨子
こおろぎ	芥川 也寸志	関根 栄一
すずむしりーんりん	ジロー やまなか	ジロー やまなか
つき	池田富造編曲	文部省唱歌
むねをはって		
あき	則武 昭彦	同上
やまのおんがくか	ドイツ 民謡	水田 詩仙
どんぐり	平尾 貴四男	清水 たみ子
おちぼのじゃんけん	戸倉ハル作曲 小林つや江編	戸倉 ハル
おやまのおに	田中 銀之助	望月 クニ
シンゲルベル	ペーアポント	
北の国から	則武 昭彦	同上
あられ	梁田 貞	葛原 しげる
おもちゃのシンフォニー	ハイドン	
こなゆきこんこん	平尾 貴四男	飯島 敏子
さるかに	服部 正	
春	井上 武士	吉田 トシ

曲 名	作曲者	作詞者
四月の歌	則武 昭彦	同上
さよなら幼稚園	山中 二郎	同上
お百姓さん		
保育ノート		
しんたいけんさ	磯部 俣	まど・みちお
ねんど	磯部 俣	まど・みちお
みんなよいこで	小谷 肇	保富 康午
子供のマーチ	磯部 俣	まど・みちお
わらいんぼコスモス	ありしま・しばたけ	まど・みちお
あそびましょ	渡辺 茂	後藤 樽根
よいこのあいさつ	渡辺 茂	まど・みちお
あくしゅでこんにち	大中 恩	鶴見 正夫
へのへのもへじやー	イギリス民謡 夏目 鐘甲編	植村 敏夫
おつかい	小林つや江	戸倉 ハル
どんぐり	中田 喜直	サトウ・ハチロー
わらいかわせみには	フランス民謡	水田 詩仙
なすなよ	佐藤 真	まど・みちお
はしるのだいすき	押尾 万理子	(園児)
山のお正月	中田 喜直	小林 純一
大きなたいこ	中田 喜直	小林 純一
手をたたきましよう	中田 喜直	小林 純一

曲 名	作曲者	作詞者
おしくらまんじゅう	中田 喜直	小林 純一
さくらのななさん	磯部 俣	まど・みちお
幼児音楽教育法		
まててね	小林 三千三	武鹿 悦子
まつぼっくり	小林つや江編 飯田 秀一編	広田 孝夫
おかえりのうた	一宮 道子	天野 蝶
大きなたいこちいさなたいこ	中田 喜直	小林 純一
そうさん	団 伊玖磨	まど・みちお
おつかいありさん	団 伊玖磨	関根 栄一
しゃべるでほい	中田 喜直	サトウ・ハチロー
かごめ	(下総 皖一 伴奏)	わらべうた
手をたたきましよう	渡辺 茂	小林 純一
おへんじ		渋谷 重夫
おきやくさま		
めだかがっこう	中田 喜直	茶木 しげる
大きなもみの木の下		
参考曲		
赤い鳥小鳥	成田 為三	北原 白秋
おにさんこちら	わらべうた	
ちゅうりつぷ	井上 武士	作詞不明

曲 名	作曲者	作詞者
かくれんぼ	信時潔(伴奏)	わらべうた
さんりんしゃ	本多 鉄磨	増子 とし
て・て・て	渡 辺 茂	まど・みちお
しんたいけんさ	磯 部 俊	まど・みちお
ごはんをもぐもぐ	磯 部 俊	まど・みちお
あさがお	則武 昭彦	
アメチョコさん	一宮 道子	天 野 蝶
とんぼのめがね	平井 康三郎	額賀 誠志
おちばひらひら	磯 部 俊	まど・みちお
たきび	渡 辺 茂	異 聖 歌
ふしぎなポケット	渡 辺 茂	まど・みちお
おほしさま	磯 部 俊	深尾 須磨子
くつがなる	弘田 竜太郎	清水 かつら
おほしさま		
なわとび	渡 辺 茂	都築 益世
クリスマスのかねが	渡 辺 茂	高 すすむ
おしょうがつ	滝 廉太郎	東 くめ
てんとうむし	小林 つや江	清水 あさ
かもめのすいへい	河村 光陽	武内 俊子
うたのまち	小林 三千三	勝 承夫
別れの曲	ショパン	堀内 敬三

曲 名	作曲者	作詞者
中国地方の子守り歌	山田耕筰 編	日本 古 謡
平城山	平井 康三郎	北見 志保子
おお、牧場は緑	チェコスロバ キヤ民謡	中田 羽俊
はるかな友に	磯 部 俊	同上

これらの曲について、ピアノの演奏技術の難易という観点に立って検討してみたところ、次のように、三つの段階に分けられ、それぞれの観点をまとめて示してみた。

この場合、Aが最も演奏技術の容易なものとし、Cが最も高度なものとした。

<p>Aグループ</p> <p>i 伴奏の型が一種類で変化がない。</p> <p>ii リズムが単純である。</p> <p>iii 音域が広くない。</p>	<p>Bグループ</p> <p>i リズムは、二種類以上の変化がない。</p> <p>ii 十六分音符までの単純なリズムを使用。</p> <p>iii 八分音符を中心に使われている。</p> <p>iv 単音ばかりでも、音域を広く使っているものもある。</p>	<p>Cグループ</p> <p>i 伴奏の型が、一定せず、変化に富んでいる。</p> <p>ii 付点音符が、かなり多く使われている。</p> <p>iii シンコペーションが多く使われている。</p> <p>iv リズミカルな表現を多く要求している。</p>
--	--	--

# 〔例〕Aグループ 手をたたきましよう

小林 純一 作詩  
中田 淳 直 編曲

てをーた たーき まーしょう たんたんたん たんたんたん

あしーぶ みーし まーしょう たんたんたんたん たんたんたん

わらいま しょう あっはっは わらいま しょう あっはっは

あっはっは あっはっは ああおもし ろい

# 〔例〕Bグループ 子どものマーチ

明るくはぎれよく ♩=120-126

保富 康平 作詩  
小谷 廉 作曲

おなへのー コッパのー たいこでー ラッパでー ちんちんちんちん あおぞらを

1. 子どものー 2. こどもー マーチだー マーチだー

ほしに くる くる かおし ちんちん こいぬもこねたも ついでこいホ

おひさまいっせいで こどもかっかいだ



〔例〕Cグループ　・　はしるの　だいすき

[illegible]

これらの、段階別に楽譜を分類してみると第八表のようになった。

この三つの段階から考えてみると、Aグループの水準は、二年間、普通に学習していれば、保育科へ入学してからピアノを始めた人でも、楽に演奏できるものと考えられる。Bグループでは、二年間の学習で、必ずしも十分満足できるものになるとはいえない。特に、音楽的な適性や、今までの音楽経験によって、左右されると考えられる。しかし、この程度のものは、演奏できるものであり、幼児教育の教材として普通のものであると思う。

Cグループは、保育科へ入ってから、ピアノ学習をはじめた人では、まず、十分な演奏は、出来ないものと考えられる。しかし、これも、音楽適性に恵まれていれば、不可能でもないが、一般的には、無理なものといつてよいであろう。

そこで、分類したものとみると、保育雑誌では、Bグループが多く、『月刊保育カリキュラム』が二二曲の中で一三曲、『保育ノート』は一五曲の中で七曲がそれぞれBグループであつて、約半数は、Bを占めている。

Cグループは、それぞれ四曲ずつであり、三分の一ないし、四分の一は高度のものである。そして、最も容易なAグループも、三分の一ないし、四分の一である。

しかし、音楽教育指導書の内容は、Aグループが、三七曲の中で、二七曲を占めていて、七三%が易しい曲で占められている。これは、この指導書が、保育養成の教科書として、編集されたものであるので、基礎的なものを中心に、とりあげてあるのに反して、保育雑誌では、現職の

第8表

		A	B	C
月刊 保育カリキュラム	1	あまだれぼったん	春	早起きどけい
	2	つき	4月の歌	こおろぎ
	3	おちばのじゃんけん	さよなら幼稚園	むねをはって
	4	おやまのおに	お月さま	さるかに
	5	ジングルベル	すずむしりーんりん	
	6		あき	
	7		やまの音楽家	
	8		どんぐり	
	9		北の国から	
	10		あられ	
	11		おもちゃのシンフォニー	
	12		こなゆきこんこん	
	13		お百姓さん	
	計	5	13	4
保育 ノート	1	みんなよいこで	子供のマーチ	そとはいいな
	2	どんぐり	ねんど	へのへのもへじ
	3	サンタクロース	わらいんぼうコスモス	わらいかわせみには
	4	手をたたきましよう	おつかい	なすなよ
	5		大きなたいこ	はしるのだいすき
	6		おしくらまんじゅう	
	7		さくらのはなさん	
	計	4	7	4
幼児音楽 教育法	1	まててね	ぞうさん	1. 別れの曲 2. 中国地方の子守歌
	2	まつぼっくり	しんたいけんさ	
	3	おかえりのうた	ごはんをもぐもぐ	
	4	おつかいありさん	おほしさま	
	5	しゃべるでほい	なわとび	
	6	かごめ		
	7	おへんじ		
	8	おきやくさま		
	9	めだかのがっこう	歌曲集	
	10	大きなもみの木の下	1. おお牧場は緑	
	11	赤いとり小鳥	1. はるかな友に	
	12	チューリップ	3. 平城山	
	13	かくれんぼ		
	14	さんりんしゃ		
	15	ててて		
	16	あさがお		
	17	アメチョコさん		
	18	とんぼのめがね		
	19	おちばひらひら		
	20	たきび		
	21	ふしぎなポケット		
	22	おほしさま		
	23	くつがなる		
	24	クリスマスのかねが		
	25	おしょうがつ		
	26	てんとうむし		
	27	かもめの水兵さん		
	28	うたのまち		
	計	28	8	2

保育者を対象としてあるので、程度や内容ともに、高くなる傾向があると考えられる。したがって、Aの段階が確実に演奏でき、Bの段階を、事前の練習によって、保育の中で十分演奏できるくらいの技術が、基本的には要求されていると考えられる。

#### 四 総合考察と結論

現職の幼稚園教諭の意見と、教材の曲の内容という二つの面から、ピアノ演奏技術を考察してきた。

現職教諭の意見からみると、在学中個人レッスンが、十分できるよう配慮することにより、二ケ年間で、ピアノ演奏技術が身につくものと

考えていることがわかる。

又、保育の中で、実際に、使用される音楽の演奏や、指導の方法を身につけたいという意見が強い。

しかし、保育の中で実際に使われている音楽の内容から、ピアノ演奏技術の程度を検討した結果は、現職教諭の意見と必ずしも一致しない。

すなわち、二ケ年間の学習で、保育に必要なピアノ演奏技術を修得することはできない場合があると考えられることもあるからである。

しかし、最近の学校教育における音楽教育の向上ということから考えれば、幼稚園から高等学校へいたる学校教育の中の音楽教育によって、かなり、音楽についての技能と教養が身につくはずである。ましてピアノ演奏以外の楽器、たとえば、ハーモニカ、たて笛、オルガンなどの演奏の経験があるので、二ケ年間の学習といっても、できないとはいえないし、むしろ十分な期待を持てるように思う。

そこで、現在の保育科の学生の実態と意識について調査してみると第九表ようになる。一般的傾向をさぐるために二つの短大保育科二年生について調査してみた。

これによると、入学後、はじめて、ピアノ学習を始めた学生は、ほぼ六〇%前後であり二つの短大で大きな差はない。残り約四〇%前後の学生が、入学前にピアノの学習をしたことがあり、その中で、約70%がバイエルを修了しているとみられる。

現在、授業の外にピアノのレッスンを受けている学生は、約二〇%前後である。

第9表

		A短大	B短大	計
Ⅰ ピアノのレッスンは				
入学後始める		92人	80人	172人
入 学 前	バイエル修了	46人	37人	83人
	バイエル未修了	17人	18人	35人
その他及不明		0人	9人	9人
計		155人	144人	299人
Ⅱ 現在授業以外のレッスンを				
受けている		33人	20人	53人
受けていない		122人	123人	245人
計		155人	143人	298人
Ⅲ 現在ピアノを				
持っている		58人	69人	127人
持っていない		73人	62人	135人
郷里にある		24人	13人	37人
計		155人	144人	299人
Ⅳ 卒業後個人レッスンを				
受ける		78人	63人	141人
受けない		57人	78人	135人
そ の 他		20人	3人	23人
計		155人	144人	299人

更に、現在、ピアノを所有しているかどうかについてみると所有している学生は、それぞれ三七%と四七%で二校の間にはかなりの差がみられる。しかし、郷里にあるという学生を参照してみると、地方出身の学生の多少が影響している。しかし、現在、練習に使用できるかどうかという観点に立てば、この地方出身者の多少は一つの問題となる。

そこで、ピアノ所有の学生が三七～四七%いるという現実からすれば、前にあった「ピアノの練習時間が不十分である」という理由は、問題にならなくなってくるのではなからうか。

ただし、こうしたピアノ所有率の三七～四七%とくらべて、バイエル修了まで学習した学生が二五～三〇%ということは、一つの問題である

第10表

学校名	科 目	必 修	選択必修	選 択	備 考
A 短 大	音 楽 理 論			2	○A・B・C短大は、 幼稚園教諭免許状のみ取得可 ○D・E・F・G・短大は 幼稚園教諭及び保育資格取得 可 以下は 保育内容に関するもの
	音 楽 史			2	
	音 声 楽	4			
	器 楽	4			
	幼児音楽演習	2			
	音楽リズム	2			
	計	12	0	4	
B 短 大	音 楽 理 論	2			□印……実習
	音 楽 史	4			
	ソルフェージュ	②			
	音楽実技	③			
	音楽リズム	2			
	計	13	0	0	
C 短 大	音 楽 理 論	1			C短大には、下記4コースがある a—保育音楽コース b—美術コース c—特殊保育コース d—一般育児コース それぞれ必要単位数は 音楽理論 a=3 d.c.b=1 器楽 a=4 声楽 b.c.d=1
	器 楽	②			
	歌 唱	①			
	器 楽	②			
	リ ズ ム	②			
	計	8	0	0	
D 短 大	理 論	2			音楽リズム a=3 b.c=1
	声 楽	1			
	器 楽	1			
	リ ズ ム	2			
	計	6	0	0	
E 短 大	理 論	2			○印……演習
	声 楽	②			
	器 楽	②			
F 短 大	幼 児 音 楽	①			
	リ ズ ム	①			
	計	8			
G 短 大	ソルフェージュ	4			
	器 楽	4			
	音楽リズム	2			
	計	10			
G 短 大	器 楽	I		2	
	ク	II		2	
	ク	III		2	
	声 楽	I		2	
	ク	II		2	
	理 論	I		2	
	ク	II		2	
G 短 大	音楽リズム	I			
	ク	II			
	ク	III		1	
	計	8	0	9	

といわなければならないし、途中でピアノの学習を中止する場合の多いことを示してはいないだろうか。

なお、卒業後、ピアノの個人レッスンを受けるかどうかについて、前の現職教諭の実態と、四四〇五〇％の学生が受けると答えていて、

二二％とくらべて、かなり高い。しかし、これは将来のことであり、希望であるので、現実にあたってどうなるか、又、幼稚園や保育園へ就職しない者もふくめた数であり、あまりあてにならないが、かなり希望をもっていると考えてよいであろう。

入試に音楽のテストがある学校	5 校	26 校
入試に音楽のテストがない学校	21 校	

調 査 校

家政大 鶴見 宝仙 洗足学園 成徳 東洋英和女子短 横浜女子短 川村 和泉 茨城女子短大 白梅 立正 聖徳学園 二階堂 清和 青山学院女子短大 駒沢女子短大 土浦短大 作新学院 千葉敬愛 十文字学園 昭和女子大 星美学園 玉川学園 鶴川女子短大 日体大

次に、現在の保育科における音楽の授業内容について、短大協会の調査の資料集の中から音楽についてみると、前頁の第一〇表のようである。

これによると、七つの短大の学校差が非常にあることがわかり、それぞれの学校において、いろいろと工夫と苦心していることがわかる。必修と選択や、実習と講義などの配分は、保育科の教育課程の全体的な内容と時間数とかかわりをもつてくるので、音楽だけに比重をかけることは困難であり、最も効果を高めるには、どのような授業内容を選択し、どのように時間を配当するか、いろいろと試みているように感じられる。

次に、入学前における音楽学習の程度や能力が、その後の音楽学習に影響があるとするならば、入学試験において、音楽の能力を検査するのがよいと考えられる。

そこで、入学試験の中で、音楽に  
関する科目を実施しているかどう  
か、関東地区の短大二六校について  
まとめると第一表のようであつ  
た。

すなわち、音楽のテストを行つてゐるのは二六校中五校であつた。その音楽のテストの内容をみると、第十二表のようであり、課題曲を決めて演奏させたり、歌唱させたりすることがわかる。しかし、一般的には、

1.	(イ) バイエルNo. 31. No. 62. No. 102 (任意の一曲をひく) (ロ) 全訳、コールユーブンゲンの原書、No. 13 の (b) を歌う ☆ (イ)・(ロ) 共、楽譜は試験場に準備したものを見る
2.	(イ) 楽典一般 (ロ) コールユーブンゲン 3 度音程まで
3.	声楽 (課題曲あり、願書受付のとき交付)
4.	(イ) 一般通論、及、簡単な実技
5.	(イ) 基本的な簡単なテスト (音楽、図工)

テストがあるといっても、この程度のテストでは、音楽の能力やピアノ演奏について十分たしかめることはできにくいのではなからうか。したがって、テストの内容については、なお検討の余地があるといつてよいであろう。

このように、いろいろな角度から考察してみると、ピアノ演奏の技術の学習をより効果的に進めるには、多くの問題がからみあっていることが考えられる。

第	
1.	すなわち、保育に必要な音
2.	
3.	
4.	
5.	

楽の、基礎的な内容の程度と

範囲を先ず明確にしなければならない。これについては、理論的におさ  
えればよいので、そんなに困難なことではないであろう。

しかし、その程度にふさわしい音楽についての基礎能力をつけるにはどうしたらよいかというと、養成上の実問題として考えるときに、特に多くの問題があることである。

ここでは、ピアノ演奏能力ということを中心に考察したのであるが、授業内容の選択と、指導方法を考える前提として、今後更に考えて行き

たい。

## おわりに

以上四章にわたり、現職の先生方・学生のアンケート、及び保育雑誌・短大カリキュラム等を中心に考察を進めてきた。アンケートの回収率が低かったため、解答の絶対数が非常に少なく、これだけの数から、早急な結論を出すことは勿論不可能である。しかし、一般的な傾向は伺い知れるのではないかと思われる。

本小論全体を通じていえることは、それが実態調査の段階で終わってしまったことである。しかし、この調査で知られた一般的傾向をもとに、今後、指導の方法について、研究したいと思う。

最後に、本小論をまとめるに当り、日頃御指導いただいている、駒沢女子短大音楽研究室主任、浅野教授を始め、保育科の諸先生方、並びに、アンケート調査に御協力下さった幼稚園・保育園の先生方、関係短大の学生諸氏に感謝します。